

「誰か」ではなく「私が」

社会は今のままでいいのか、今の社会は幸福なのかと問われれば、多くの人が「決してそうではない」と答えられるでしょう。私たちは様々な社会課題を前にして、「もっとうなればいいのに」という思いを少なからず抱いています。

ところが、日本青少年研究所による「中学生・高校生の生活と意識・調査報告書」（2009年）によれば、日本の高校生は「私の参加により、変えて欲しい社会現象が少し変えられるかもしれない」という質問に対して18.5%が「全くそう思わない」、49.8%が「あまりそう思わない」と回答しました。先述の調査結果によるアメリカ・中国・韓国との比較から、日本の若者の社会的効力感が低い傾向は明らかです。

社会づくりを「誰か」にお任せするのではなく、「私が」担い手となることで、自らの思いが生かされた社会がつくり出されていくことでしよう。「誰か」にお任せしているだけではなく、「私も」その活動の輪に入ること、その解決力は増すことになるでしょう。しかし、「どうせ…」といったあきらめが蔓延していく中で、社会参加が遠のいていくことに私は危機感を抱いています。

私たちには社会を変えていく力があるということ。そして、社会づくりに参加することは喜びを得られるものであるということ。

問題が解決し得ることに気づいた時、希望を見いだしました。そして、実際に課題解決の活動に取り組み、社会の中で役立つ私に気づいた時、喜びを受け取りました。この学びの体験が今なお私を支えてくれています。

その後、阪神・淡路大震災での被災経験もあり、高校生の時に被災児童支援に取り組みNPOに参加し始め、学生時代は野外教育や不登校児童支援のボランティア活動に取り組みました。この活動の中で、小学校で得た気づきを深めていきました。また、日本を代表するNPOのリーダーと共に議論し、新たな動きを展開していく中で、市民社会の役割を実感していくことになりました。しかし、こうした実感を得られている若者が限られていることにも気づきました。

「思い」から「形」へ

そこで、私自身が社会参加活動を通じて学びを育んだことを踏まえ、当会では地域の青少年支援機関と協働で長期実践型ボランティア



まちづくりのプロジェクトを企画立案する高校生

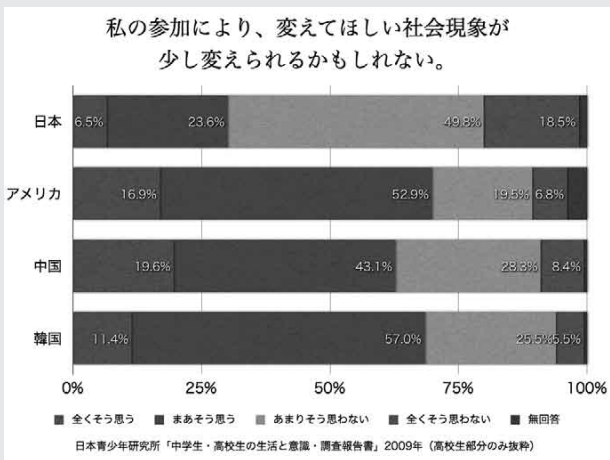


表1 高校生の社会効力感に関する国際比較（作成：筆者）

これらのことを実感できる学びの場をつくり出していきたい。そのような願いから2003年にシチズンシップ共育企画を設立しました。

「理解」ではなく「実感」

私は小学校での環境教育の中で、社会問題や社会参加に関心を持つようになりまし。日頃遊んでいる、私にとって大切な海が汚れているのは、私たちの生活行動が原因であることに気づいた時、衝撃を受けました。同時に、私たちの生活行動を変えることでその

ア学習プログラムとして「ユースACTプログラム」を展開しています。高校生が自らの問題意識に基づいた社会課題を設定し、その解決のための活動を企画し、実際に行動に移してみるというものです。ここで企画される活動は小さなものではありませんが、ふりかえりでの参加高校生の声に耳を澄ませば、このプログラムが「まちの主になるレッスン」になっていることが分かります。

また、私たちは高校生のみならず、小学生から高齢者までを対象に、学校教育機関や社会教育施設での市民教育や協働まちづくり、市民組織運営に関するワークショップも実施しています。そうして毎年全国各地で多世代の方と交わり、考え、学ぶときを共にしますが、本当に多くの人々が自らの住む地域や今の社会をよくしていきたいという思いを胸に抱かれています。ことに気づかれます。

その思いを形にすることを促し、よい実践に結びつけていく学びのニーズに応え、いくことが教育に関わる私たちには求められているでしょう。



組織マネジメントワークショップの様子

第29回 生涯学習を仕事にする

市民としての意識と行動力を育む学びの場をつくる



シチズンシップ共育企画 代表 川中 大輔

ファンリレーター。神戸市生まれ。青少年支援・環境・まちづくりの市民活動に取り組み、シチズンシップ共育企画を設立。現在、同代表。立命館大学共通教育推進機構サービラーニング担当嘱託講師なども務める。

「概念普及」から「実践深化」へ

ここ数年、国のみならず地方自治体の政策を見ていても、シチズンシップ教育への関心が高まってきていることが分かります。また、シチズンシップ教育の実践や研究に取り組んでいる方々が全国で増えてきていることも確かなことです。これからは、そうした実践者を支えていくために、実践知を交流させながら、現場の課題解決のために知恵を寄せ合い、また先導的な取組を生み出していくプラットフォームが必要ではないかと考えられます。こうした流れの中で、2013年3月には日本シチズンシップ教育フォーラム（J.C.E.F）が設立されました。日本においても概念の普及から実践を深化させていく段階へと移行してまいります。私たちもJ.C.E.Fの一員として、日本におけるシチズンシップ教育の発展に貢献していきたいと考えます。



日本シチズンシップ教育フォーラム設立記念シンポジウムの様子